



各所で冬支度が始まっている。一昨年の秋に着工した夫の工房も今は木小舞の姿から、凍れる前には土壁をまとうだろう。本州では土壁を塗る前に竹小舞をこしらえる。北海道には竹がないので、木小舞という稀な手法を用いた。細かく縦横に木を組んだ壁を廻らし、外と内から土をつけ一体の壁として圧着させる。完成すれば木小舞の姿は壁の中に埋もれ、人目に触れることはない。



工房は、釘などの金物を使わずに木を組む伝統工法で建築や家具を手がける自然素材のものづくりに使用する。工房自体も自然素材を用い、北海道の材と向き合い、材の命を最大限に活かす工夫の北海道でのあり方を実験、模索したものだ。土壁には基礎を掘った時に出土した良質な相生の土を使うことになった。この繊細な木小舞たちはこれから相生の土に潜り、人知れず工房を支えてくれる。ゆっくりと太い根をはり、自然と共生する建築技術を、その心を後世に伝えてくれる大樹となることを願っている。

木小舞を見られるのは、この秋だけ。毎年同じ季節が巡るようで、着工した秋にお腹の中にいた子も今は大地を踏みしめ歩き出している。来年の秋には完成した工房で夫の背中を追いかけているのだろうか。空が一層高くなった。もう間もなく往く秋を惜しむ雪虫の舞が見られる。



地域おこし協力隊員が津別町に来て学んだこと、感じたことをつづります。

この秋だけの木小舞

小塚 翔子

育休休業から復帰し、役場で町の仕事サイト「ワークINツベツ」の取材を担当します。



地域おこし協力隊の「思いつき」



科学体験で驚きと感動が広がる

北海道立教育研究所が特別授業を実施

9月14日、北海道立教育研究所附属理科教育センターの協力のもと、小学5年生・6年生を対象とした科学体験の特別授業が行われました。マイナス19.6度の液体窒素や静電気の実験など、初めての体験に子どもたちは驚嘆の声を上げていました。



オーケストラの迫力とハーモニー

日本フィルセミナーコンサート開催

全国から参加したアマチュア演奏家を指導する「つべつ日本フィルセミナー」が今年も開催。8月27日には、その集大成である「第26回日本フィルセミナーコンサート」が中央公民館で行われ、観客はオーケストラの迫力と美しいハーモニーを満喫しました。

夏合宿！きれいな芝生に隠された秘密と第26回日本フィルセミナー

現在インターネットで公開中！ 町のHPをご覧ください

津別町の夏の風物詩といえば合宿。日本全国からラグビーやサッカーチーム等が訪れ合宿を行っています。津別町合宿の魅力の一つが「芝」。青々と育つ芝生に隠された、津別町ならではのメリットとは？

また、津別町はスポーツの合宿だけではなく、文化的な合宿も行われています。その一つが今年で26回目を迎えた「日本フィルセミナー」。日本トップクラスの交響楽団「日本フィルハーモニー交響楽団」の音楽家たちと、アマチュアの音楽家たちが津別町に集結し、オーケストラを結成。2泊3日の行程で音楽を作り上げ、最終日にはコンサートまで行う取り組みです。26回目の開催に密着しました。ぜひご覧ください。



夏合宿！きれいな芝生に隠された秘密 第26回「日本フィルセミナー」

この番組は、津別町の今を映像で定期的に発信（月1回）することで、町民の町づくりへの参加促進、移住・定住の促進、ふるさと納税の拡大を図り、町づくりの記録を残すことで、10年後20年後の町民への財産とします。完成した映像は、町のWebサイトや道東テレビ、YouTube等で公開いたします。また、さんさん館、津別病院、道の駅あいおいに設置された「デジタルサイネージ（映像看板）」でも視聴することができます。＊タウンニュースつべつは、ふるさと納税の寄附金により制作しています。

毎月末日ごろ更新 《取材希望企業・飲食店・生産者募集!! 詳しくは役場住民企画課まで》

問い合わせ先 住民企画課 企画係 14番窓口 ☎77-8374



自然を大切に作る心を養う

木に触れて学ぶ木育授業を実施

9月20日、小学3年生・5年生を対象に、児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めることを目的とした木育授業が行われました。

講師に木工デザイナーの煙山泰子さんを招き、子どもたちは木を通じて多くのことを学びました。



津別の小麦で給食を彩る

津別産小麦を使用した手延素麺を給食で提供

9月5日、津別町農業協同組合から教育委員会に津別産小麦を使用した手延素麺2.7キロが寄贈されました。9月8日の学校給食で冷やし素麺として提供され、給食を食べた子どもたちは美味しかったと笑顔を見せていました。